

～間伐材（杉板）を用いた小題材の製作を通して～

1. 設定理由

これまでの我が国は、ものづくりの技術を通して大きく発展してきた。流通の発展からも、私たちの生活は豊かになり、必要な物は買えば済んでしまうような状況である。反面、技術の力が環境問題などにも影響しており、注目が集まっている。技術と社会や環境との関わりが一層重要視されている。また、来年度より完全実施となる学習指導要領では、知識基盤社会の時代において、一層「生きる力」を育むことが重要視されている。「生きる力」の基礎となる学力の重要な要素として、「基礎的・基本的な知識・技術の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」などが挙げられる。「A材料と加工法に関する技術」において、生活や産業の中で利用されている技術は、小学校の学習を踏まえて中学校3年間の見通しを持たせるガイダンス的な内容を、1年次の最初に履修させることになった。本教科は、中学校3年間しか実施されず、小学校での学習は図画工作での学習経験が主となる。技術と社会や環境との関わりを踏まえたガイダンスを実践するには、事前に生徒の実態調査を行い、地域・学校の環境を踏まえる必要がある。

基礎的・基本的な定着を図るには、本教科の特徴でもある実践的・体験的な学習を通して達成感や成就感を味わいながら習得させることが望ましいと考える。また、技術と環境との関わりについて考えさせるために、あえて材料に間伐材を用いることで、捨てられてしまう木材を有効利用することを体験させ、生徒の興味関心を更に高められると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1) ものづくりの経験の少ない生徒は、小題材の製作を繰り返すことで、達成感が得られるであろう。
- (2) 教師が間伐材の性質を考慮した題材を与えれば、生徒は技術と環境についての理解を深め興味関心が高まるであろう。

3. 研究内容

- (1) 実態調査
- (2) 年間指導計画
- (3) 関心意欲評価
- (4) 題材開発
- (5) 生徒の興味関心の変容

4. 結論

- (1) ものづくりの経験の少ない生徒に、小題材の製作を繰り返し行うことで生徒の感想にもある「まっすぐきれいにけずれて良かった」「うまくできた」「板をもらってやり直したらうまくできた」「またやりたい」という言葉からも、達成感を得ることができた。
- (2) 間伐材を使った小題材で製作することを通して、技術と環境についての理解を深め、興味関心を高めることができた。